

特別 委員会報告

ILC調査特別委員会

12月6日の委員会は、同日盛岡中央公民館で開催された「ILCシンポジウムin岩手」に参加しました。

このシンポジウムは、盛岡市内で12月5日から9日までの5日間、ILCに関する大規模な国際会議「リニアコライダー・ワークショップ2016」が開かれ、その関連行事として開催されたものです。

シンポジウムには約400人が参加。第1部では、岩手県立大学の鈴木学長による「ILC計画の現状と地域へのインパクト」と題しての講演が行われ、第2部では、当市や一関市ほか関係自治体の首長等によるパネルディスカッションが行われました。

当市の小沢市長は奥州市の魅力ある食や祭り、歴史文化をはじめ、国立天文台水沢VLBI観測所を紹介し、ILCを迎い入れるまちづくりを進める

うえで必要な視点として「IT環境の充実、サイエンス・ファーストの重要性」を強調しました。

国際リニアコライダー研究施設の建設という世界規模の大プロジェクトを北上山地にて実現できるよう、機運の高まりを実感した有意義な委員会となりました。



シンポジウムでのパネルディスカッション

奥州万年の森特別委員会

10月19日の委員会では、市長に対し新たに調査照会を行うこと、選定業者に対し更なる記録の提出請求を行うことを議決したうえで、NTTファシリティーズ社からの回答と、これまでの証人喚問で得られた証言、照会内容との齟齬が生じる部分について、関係職員から意見等を聴取するため、参考人として委員会出席を要求することとしました。

11月4日の委員会では、先の調査照会等による市長からの回答と選定業者

からの回答を精査したうえで、参考人からの意見聴取を行いました。

参考人として、現総務企画部政策企画課長、前同部政策企画課長及び前同課企画推進係長の3名に出席していただき、「残土を奥州市の負担で撤去するに至った経緯」、「残土に関する選定業者との協議状況」を中心に意見等を聴取しました。

また、11月30日の委員会では、とりまとめる報告書の概要を委員間で共通理解するとともに、報告書の核となる部分について、会派ごとに意見をとりまとめることとしました。



12月20日委員会委員からの質問に答える佐藤委員長（中央左）

定例会中の12月20日の委員会では、報告書をまとめ上げるためには、なお引き続き調整及び諸所の確認作業が必要であることを確認し、来年1月中旬の報告書の成案化に向けて精力的に取り組んでいくことといたしました。



12月19日委員会挨拶をする渡辺委員長（左）



市長に対し懇談会内容を報告（12月9日）

定例会中の12月19日の委員会では、12月9日に正副議長及び当委員会の正副委員長が市長に対し報告した、8月に開催した各区地域協議会委員と議員の懇談会、10月に開催した関係する地域団体と議員の懇談会における地域自治体のあり方に関する要望や意見を踏まえながら、今後、地域自治体存続に係る議員間討議を行うこととし、議員間で議論を尽くしたうえで、議会としての結論を導き出すことに決定いたしました。

地域自治体調査特別委員会



12月19日委員会挨拶をする渡辺委員長（左）



市長に対し懇談会内容を報告（12月9日）